

28. 東海道—箱根旧街道・湯坂道・西坂・宇津ノ谷峠越

選定箇所：湯本～箱根関所跡、湯本～元箱根※1（神奈川県箱根町）、箱根峠～川原谷（静岡県函南町～三島市）、宇津ノ谷（静岡県静岡市）～坂下（藤枝市）

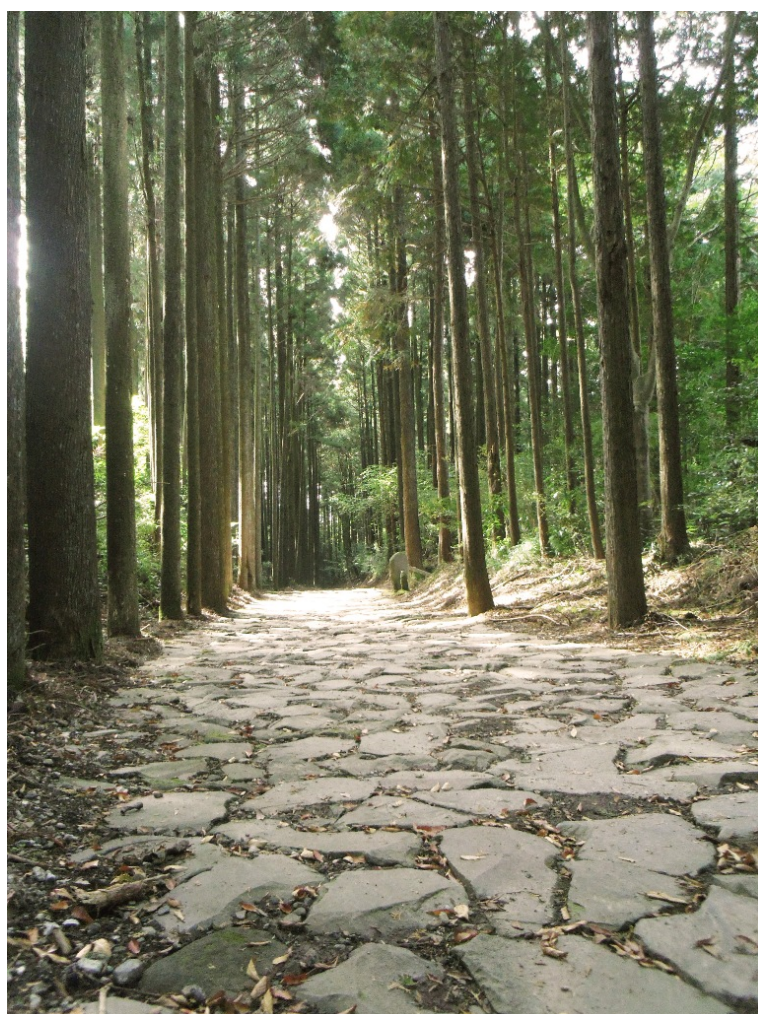
概要：東海道きつての難所とされた箱根越えの道である。湯坂道は、主に中世（鎌倉～室町時代）に用いられ、湯本から浅間山、鷹巣山などを通り、芦之湯から元箱根で箱根旧街道と合流する。沿道には国史跡「元箱根石仏群」がある。箱根旧街道は近世に開かれた道で、湯本から須雲川沿いの谷筋を通り、芦ノ湖畔に至る。国史跡「箱根旧街道」に指定された石畳や杉並木などの街道遺構は今なお当時の面影を伝え、芦ノ湖畔の国史跡「箱根関跡」には、近年箱根関所の建物が復元整備されている。

小田原から三島までの箱根峠を越える箱根八里には、石畳の道や並木、一里塚が多く残り、国史跡「箱根旧街道」に指定されている。中世までは別ルートの足柄道が主に利用されたが、江戸時代にはこの道筋が東海道として整備された。滑りやすい坂の難所であるため、延宝8年（1680）に石が敷かれている。宇津ノ谷峠越も国史跡「東海道宇津ノ谷峠越」に指定されている。『伊勢物語』に蔦の茂る細道として記され、歌枕や文学にも登場する名所であった。小田原攻めの際に拡幅整備したとされ、江戸時代にも多くの旅人が行き交った。

※1 平成8年度の選定箇所は「湯本～芦之湯」となっており、歩道が整備されている南側の国道部分のみを選定したと考えられる。芦之湯から西の国道部分は選定されていなかったが、現在は歩道が整備され、湯坂道が主に用いられた中世の道筋を歩くことが可能である。よって、選定箇所の考え方を統一し、選定箇所を「湯本～元箱根」とする。



箱根旧街道石畳（箱根町）



写真提供：三島市教育委員会